

カテイラン

餅をかびぬ 様にする法

お餅はかびて困りますが、お餅をつく時のとり粉は、ホウロクで炒つて用ひますと色は少し汚くなりますが、

かびのつき方は、づつとちがひます

豆餅の拵へ方。

糯米二升に付大豆三合鹽を大サジ一ぱい入れます。大豆は白でも、黒でも好みの物を形がくづれぬ程度にやはらかくむし、お餅が八分通り搗けた時少しづつ入れよく搗きませぬ

一冊の代金で 御希望通りな 五冊の雑誌が 自由に讀める

た餅は庖丁についてなかなか切りにくい物ですが、生大根をそばにおいて、一度生大根を切つてはた餅を切り又大根を切つてはた餅を切る様に致しますと、決して庖丁につきませぬから、一度にたためし下さい

平町長橋町三五
川崎文庫
(申込次第規則書進呈)

株式平銀行

第五十五期 營業報告

貸借対照表
資産の部
貸付及貸越金 三、五五七、七五一、三七〇
割引及爲替手形 三、三八、二〇一、五二〇
他店へ貸付 一、七七、四三三、七四九〇
有價証券及諸株式 五、七七、〇一〇、二六〇
營業用土地建物什器 三、二六八、〇二七〇
所有動産不動産 三、八、七二二、〇〇〇
現金 有 高 二、三三、九三六、〇七一
計 四、七四五、七四〇、六七一
負債の部
資本 五〇〇、〇〇〇、〇〇〇
諸積立金 三、一五〇、〇〇〇、〇〇〇
諸預り金 三、四八一、二六七、三六一
他店ヨリ借 二、五八、六七〇、六四〇
未拂配當會 三、八五、〇〇〇
未拂利息及 未経過割引料 七、六、七八六、八三〇
給付補填備金 一、三二、五七四、八四〇
當期純益金 一〇〇、〇五六、〇〇〇
計 四、七四五、七四〇、六七一
利益金勘定 金拾萬五十六圓世
當期純益金

之を處分スルコト左ノ如シ
金貳萬貳千圓也 積立金
金參千圓也 行員退職給
金參千圓也 興積立金
金貳萬五千圓也 重積立金
金四萬七千五百拾六圓也 後期繰越金
右之通ニ候也
大正拾三年一月
株式平銀行
専務取締役 山崎與三郎
頭取 堀江正直
取締役 高岡唯一郎
白井博之
監査役 木村清治
新田日善次郎
同 同 同 同 同 同

粹で上品な下駄を 御求めの際は 是非 三井ハキ 店

平町二丁目(電話一五六番)

山古印醬油
美味 經濟
塩屋本舗

丸登株式店

平町田町電話三三三番
川添房二郎

好間軌道	五〇〇	三五〇
入山新	三二五	一九〇
小田炭礦	二五〇	一〇〇
磐城炭礦	五〇〇	三九〇
同 新	二二五	一七三
同 新	五〇〇	八七〇
同 新	一七五	三六〇
平運送	一二五	八〇
同 新	一七五	三六〇

購買誠實懇切機敏に御取扱申候間多少に不拘御用命願候

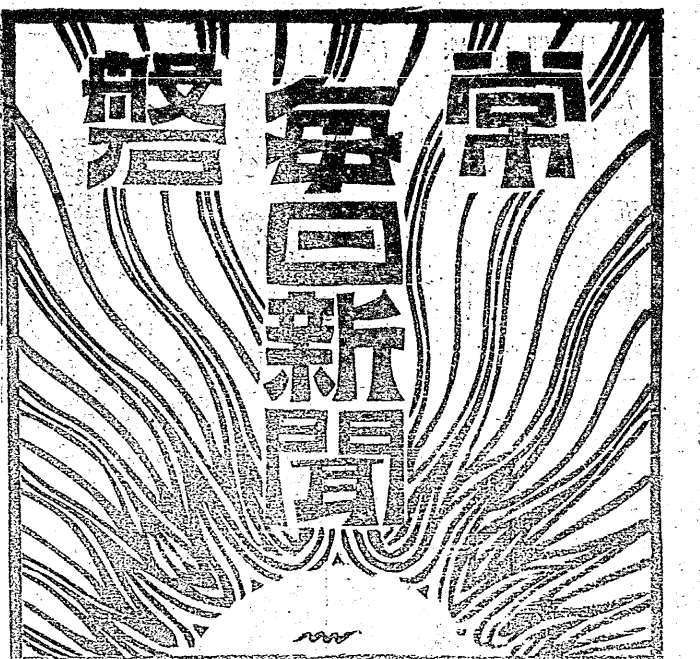
定價 一部金貳錢 月極
ニ限リ一ヶ月卅錢

五號十三字誌
一行五十錢

日刊休 曜 大祭
祝日の翌日

所刷印 福島縣石城郡平町
田町十六番地
磐城新聞社印刷部

發行兼 編輯人 川崎文治
印刷人



刊夕日卅月一

平町が本縣文化の中心地に

本縣警察部長 天谷虎之助氏談

私は新任日未だ浅く本縣の事情には極めて疎いものであります。最初、會津方面を視察し、次いで中通りから濱通りと云ふ順序で歩み、然かも最後に本郡を廻る事となつたのであります。私の生れは茨城縣であります。東北とは極めて馴染の深いものであります。今から十數年以前は高等學校の學生として仙臺市に三ヶ年間學窓生活を送りました。故に其後東京或は九州四國と

歴遍は致しましたが第二の故郷として印象の深い東北の天地を忘るゝ事が出来ません。今回赴任し來るに際しても常磐線の汽車の窓から眺むる山川風土が青春の血に燃ゆる時代を追憶せしむるに充分でありまして、云ひ知れぬ懐かしさを感じました。殊に當時から平町は常磐線中の一邑驛としてよく記憶して居りました。今から今も、回切めて平町の土を踏むにしても、非常な喜ばしさを感じます。そして平町を中心とした本郡が私の郷里である茨城縣に近接して居る地理上の關係から人情風俗の

總べてが極めて類似して居る點が多い爲めに恰も自分の郷里に遊ぶが如き感が致します。私は本縣中福島よりも或は郡山、若松よりも優れて活氣があり繁盛を呈して居る平町が將來は必ず本縣文化の中心地となるべき機運に到達して居る事を信じます。是れは實際に世辭ではなく私の偽らざる告白であります。是非平町の人々に對して平町が東北文化の關門に位して居る事を自覺して戴き度いのであります。

